

『疑いながらも、一歩ずつ』

士師記 6:11~14

あなたのその力で行き、イスラエルをミデヤン人の手から救え。
わたしがあなたを遣わすのではないか。

序]

勝利は必ずしも信仰の強さによってもたらされるものではない。「疑いながらも一歩ずつ」従っていくならば神は勝利をもたらして下さる。疑いは全否定ではなく、未成熟な表れである。神は、真実な疑いというものを、小さいけれども信仰のある証拠だと理解して下さる。ギデオンに「あなたのその力で行き」と語られた。

本]

「イスラエルを救え」という使命を与えられた時、ギデオンはそれが神からのことであるかを確かめたくて証拠を求めている(17,39)。人が神を確かめたいという求めが「どうせ神なんかないだろう」というような否定のための疑いではなく、真実な思いから出ているならば、神はそれに具体的に答えて下さる。神はギデオンに何度もしるしを見せておられる。疑うこと自体が悪いのではない。

I 人はどうして疑うのか

①現状だけに目をつけるから(13)。

「主がともにおられるなら、どうして？」と疑ったギデオンは「主は私たちを捨ててミデヤン人の手に渡されました」と言っているが、そうではなく、イスラエルのほうが主を捨てたのである(1,10)。

②自分だけに目をつけるから(15)。

「私の分団は最も弱く、私は一番若い。」聖書には彼のように尻込みしている人が少なくない。モーセ、エレミヤ、イザヤなど。主はしばしば弱い者を用いられる。強い者を恥じ入らせるためである。

II 疑う者への神の取り扱い

7章に入り、「もし下っていくことを恐れるなら」(10)と言われて、疑うギデオンに、敵陣に進入させて、ミデヤン人の一人の見た夢の話と解釈を聞かせなされた。それで彼は確信を得た。時に、思ってもみない方法で、神は疑う者に勇気を与えなされる。神は真実に、その者のレベルに合わせて、彼がわかるように導いて下さる。そして神は、その者に忍耐強く付き合っ下される。

結]

神はギデオンに、何か新しいパワーを身につけさせる必要を感じられなかった。「あなたのその力で行き」(6:14)*彼は疑いながらも一歩ずつしか進めない普通の人間だった。それでも神は、ギデオンを少しずつ育てて下された。信仰生活の途上で起こる不安なことで疑うことが多いかもしれない。それでも主に従っていこう。